

## 令和4年度 医療安全委員会 活動報告

<p>■委員名</p>	<p>委員長：庄司勝子 副委員長：池村忍 委員：中野なおみ・永井美裕貴・長田幸美・中村美津・長濱幸・松下佐智子 西山眞佐子・北野貞</p>
<p>■開催回数</p>	<p>6回</p>
<p>■活動目標</p>	<p>1. 兵庫県内の医療・看護の質の向上と安全を推進し、医療安全に携わる人への支援を行う。 2. 各支部間での連携を図り、医療安全管理活動に取り組む。</p>
<p>■活動内容</p>	<p>1. 出前講座研修の実践とアピールの方法について</p> <p>1) 出前講座の実践</p> <p>(1) 令和5年1月13日 西武庫病院 KYT (患者誤認について)</p> <p>(2) 令和5年3月3日 関西労災看護専門学校 KYT 研修 (KYT の実践)</p> <p>2) ポスターの見直しと更新</p> <p>(1) 研修内容はKYT の位置を一番上にもってくる。</p> <p>(2) 実施がWeb になる可能性があることを明記する。</p> <p>(3) 全体的にカラーの見直し、印象を変更した。</p> <p>3) 昨年度の課題に残った出前講座研修の評価・報告書のフォーマット作成</p> <p>(1) 依頼内容</p> <p>(2) 委員会での審議内容</p> <p>(3) 研修・実践内容</p> <p>(4) 受講者の反応・評価</p> <p>(5) 振り返りや意見</p> <p>等を追加してフォーマットを作成した。</p> <p>4) アピールの方法について協議</p> <p>看護協会の会員向けの定期発送にポスターを同封する。</p> <p>2. 各支部間での連携を図り、医療安全管理活動に取り組む。</p> <p>1) 各支部の医療安全の現状と研修予定を報告し、共有している。</p> <p>2) 研修に伴う困難ごとや質問等を、協議している。</p>
<p>■活動の評価</p>	<p>1. の「出前講座」については、既存原稿のKYT の他、研修資料の追加作成について協議を行ってみた結果、依頼があれば都度、作成の形をとることとした。今後も依頼の度に委員会で審議し、受諾した研修において新規に作成が必要であれば作業を進めていくとした。</p> <p>令和5年1月13日、出前講座に赴いた。内容は、提出した報告書の通りである。開催当日、当初、参加人数は20人と聞いていたが、45名の参加者、開催時間も40分の予定に対して30分で切り上げざるを得なかったと報告があった。苦慮した様子であったが、アンケートの結果から「わかりやすい」「KYT を考える機会になりよかった」「よく理解できた」「実践していきたい」等の感想があり、成果はあったと判断したい。</p> <p>令和5年3月3日、昨年度に出前講座を行った看護専門学校の学生に向けて、研修を開催した。遡ること、昨年11月に依頼があり、前年度の振り返りから課題を残す現状があったため、当該学校の教員に詳細な内容の確認をし、打ち合わせを行った上で開催を決定した経緯があった。これらは、委員会メンバーの活発な意見に反映されており、今後の出前講座の在り方に良い影響を与えたと考える。開催の決定後は、学生向けの教材を新たに作成し、当日は委員3名で臨んだ。参加人数は、2年生34名であり、講義と</p>

グループワーク、発表と90分間の研修を開催した。

アンケートは100%の回収であった。意見として、「実習に活かしていきたい」「楽しく学んだ」「危険が様々な所に潜んでいるのが理解できた」「他者との意見交換が大切だと実感した」等があり、結果として大変有意義もしくは有意義の回答が94%であったこと、また、教員からは学生が積極的に意見交換や行動目標を発表している姿を見て、研修の依頼をして良かったと聞いたこと、これらから、1月の施設に向けた研修同様、有益な研修の開催が行えたと判断したい。

2. の支部との連携については、研修開催における参加人員の減少はコロナ禍での共通した困難さであった。ハイブリッドやオンライン形式など苦慮した支部もあった。

研修後のアンケートについては、二通りあり、【①マナブルの形式、②以前からのフォーマットを使用する】であるが、①の場合、オンラインのため、自動的に処理され、コンピューター管理が可能であり、人手が掛からず便利であるが、アンケート入力は事後回収のため、提出は受講者の意思に任されている状態である。そのため、回収率の低下に繋がる要因になるのではないかと推測された。②を使う場合、質問欄には研修に特化させた追加ができるため、探求したいときにはオリジナルも可能である。こちらは紙媒体であり使用する際には、手作りの時間や回収後の処理等、作業が必要となる。しかし、研修の最後にアンケート記入時間を設けるなどして、100%の回収率の実績があった。

これらの報告を共有した際、実は①を使用してもオリジナルが作成できると教えられ、支部委員会に持ち帰ることになった。しかし、アンケート結果から、回答をヒントに今後の研修に役立てる目的がある限り、回収率低下に関しては早急に取り組むべき課題であろうと考える。

アンケートについては前述した事実を踏まえた上で、アンケート記載時間を設け、研修後には適切に臨んだ。結果100%の回収を得るに至った。

■今後の課題

前出の出前講座のポスターであるが、デザインを変更した。今年度、講座の依頼を受けてみて振り返ったが、次年度は、開催月などを限定して具体的に明記した方がよいのではとの意見があがった。データとして協会に預けているのでアレンジは可能であり、次の委員会メンバーで審議して頂けたら良いと考えている。